

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク I (4 単位)	3. 科目番号	SSMP2155 SBMP2155
2. 授業担当教員	田中 喜美子		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション・作業及び発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	社会福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、歴史、理念、権利擁護の実際、相談援助に係る専門職の概念と範囲及び倫理、ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義について学ぶとともに、実践現場で活用するためのソーシャルワークの方法・技術を身に付ける。		
8. 学習目標	<p>学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義について理解し説明できる。</li> <li>・相談援助の概念と範囲について理解し、説明できる。</li> <li>・相談援助の理念について理解し、説明できる。</li> <li>・相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解し、説明できる。</li> <li>・相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解し、説明できる。</li> <li>・総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義の内容について理解し、説明できる。</li> </ul>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート 課題	レポート・プレゼンテーション課題、作成方法・構成等の詳細については授業にて説明する。 また、授業（教科書）の内容に関する確認テストを行う。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 6 相談援助の基盤と専門職』第 3 版 中央法規出版, 2015 年</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の規準と 評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受講態度・参加姿勢 40% (全授業の 3/4 以上の出席が必要) 遅刻 (10 分程度迄) は 3 回で 1 回休みとなる。</li> <li>2. 筆記試験とレポート試験を行う。60%</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義について理解し、説明できる。</li> <li>2. 相談援助の概念と範囲について理解し、説明できる。</li> <li>3. 相談援助の理念について理解し、説明できる。</li> <li>4. 相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解し、説明できる。</li> <li>5. 相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解し、説明できる。</li> <li>6. 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義の内容について理解し、説明できる。</li> </ol>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。受講生は上記の目的のため、下記の事を守ることが期待されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業中はつねに集中力を保って受講すること。純粋に自主的・積極的な態度で授業に参加することを最も評価する</li> <li>2. 授業中は私語、居眠りをしないこと。また、携帯電話のスイッチを切っておくこと。その他授業の進行に妨げとなるいかなる行為・発言・態度は、授業態度として減点の対象となる。</li> <li>3. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず指定された書面に記録しておき、教師に学期末にその書面を提出すること。</li> <li>4. レポートの提出日を厳守すること。名前がないと 0 点にするしかないの注意する。</li> <li>5. 授業展開については、進捗状況・理解度にあわせ、順番等を変更する場合もある。</li> </ol>		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (シラバス、講義概要、試験・レポート・プレゼンテーションについての説明、グループ分け等)	事前学習	シラバスを持参する。事前に講義概要、シラバスについて目を通しておく。
		事後学習	ソーシャルワーク I のねらいについて講義用ノートにまとめる。
第 2 回	グループにて割り振られた部分についての話し合い・発表準備	事前学習	発表日や打ち合わせ日についてのスケジュールを調整しておく。
		事後学習	講義、試験日、レポート提出日等について各自のスケジュール帳につける。発表レジメを教員に提出する日を確認する。

第3回	「社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義」① (ソーシャルワーカーの仕事、法律、社会福祉士の専門性、精神保健福祉士の専門性)	事前学習	社会福祉士、精神保健福祉士とは何か、その実践内容について調べておくこと。教科書 pp. 2～6 を読んでくること。
		事後学習	社会福祉士、精神保健福祉士の法的位置づけについてノートにまとめる。
第4回	「社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義」② (現代社会とは、地域での生活、地域や家庭内で起きていること)	事前学習	最近の地域社会の問題について考え、その内容についてノートに書き留めておくこと。教科書 pp. 7～12 を読んでくること。
		事後学習	講義の要旨をノートにまとめる。
第5回	「社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義」③ (人々の人生とソーシャルワーカー、チームアプローチの必要性、ソーシャルワーク実践とその基盤となる知識)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 11～17 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べノートにまとめる。
第6回	「相談援助の定義と構成要素」① (国際ソーシャルワーカー連盟の定義とその他の主だった定義)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 20～28 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第7回	「相談援助の定義と構成要素」② (クライアントシステムとニーズ)	事前学習	IFSW の定義を復習しておく。教科書 pp. 29～33 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第8回	「相談援助の定義と構成要素」③ (ソーシャルワーカーの知識・性質・スキル、社会資源)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 33～41 を読んでくること。
		事後学習	相談援助の定義と構成要素についての小レポートを作成する。
第9回	「相談援助の形成過程」① (ソーシャルワークの源流、基礎確立期～1930年代)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 44～59 を読んでくること。
		事後学習	COS, セツルメント、YMCA の実践についてノートにまとめる。
第10回	「相談援助の形成過程」② (ソーシャルワークの発展期、1940年代～1950年代半ば)	事前学習	ソーシャルワークの前史について復習しておくこと。教科書 pp. 62～68 を読んでくること。
		事後学習	リッチモンドのケースワーク、社会診断の考え方について復習し、ノートにまとめる。
第11回	「相談援助の形成過程」③ (ソーシャルワークの展開期、1950年代半ば～1960年代以降)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 69～76 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第12回	「相談援助の形成過程」④ (ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 77～82 を読んでくること。
		事後学習	ジェネラリストソーシャルワークとは何かについてノートにまとめる。
第13回	「相談援助の理念」① (ソーシャルワーカーと価値、ソーシャルワーク実践と価値)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 84～95 を読んでくること。
		事後学習	ソーシャルワーカー専門職として身につける価値についてまとめる。
第14回	「相談援助の理念」② (ソーシャルワーク実践と権利擁護)	事前学習	教科書 pp. 96～103 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。

第15回	「相談援助の理念」③ (自立支援、社会的包摂、ノーマライゼーション)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 106～118 を読んでくること。
		事後学習	ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョンについてノートにまとめる。
第16回	「専門職倫理と倫理的ジレンマ」① (専門職倫理の概念、日本社会福祉士会倫理綱領及び行動規範)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 120～131 を読んでくること。
		事後学習	提示される日本社会福祉士会の倫理綱領・行動規範に関する事例の課題を行う。
第17回	「専門職倫理と倫理的ジレンマ」② (ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ、倫理的ジレンマにおける倫理的判断過程)	事前学習	教科書 pp. 132～140 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第18回	「総合的かつ包括的な相談援助の全体像」① (総合的かつ包括的な相談援助の動向とその背景)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 142～147 を読んでくること。
		事後学習	社会福祉基礎構造改革がもたらした新たな援助状況と求められる専門的援助についてノートにまとめる。
第19回	「総合的かつ包括的な相談援助の全体像」② (地域を基盤にしたソーシャルワークの基本的視座)	事前学習	社会福祉入門や社会福祉原論で学んだ地域福祉の部分をよく復習しておくこと。教科書 pp. 148～152 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第20回	「総合的かつ包括的な相談援助の全体像」③ (地域を基盤にしたソーシャルワークの八つの機能と事例)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 153～154 を読んでくること。
		事後学習	提供された事例におけるソーシャルワーク実践のポイントをノートにまとめる。
第21回	「総合的かつ包括的な相談援助を支える理論」① (ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、3方法の融合とジェネラリストソーシャルワーク)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 156～159 を読んでくること。
		事後学習	ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークとジェネラリストソーシャルワークとの関係性についてノートにまとめる。
第22回	「総合的かつ包括的な相談援助を支える理論」② (システム思考とエコシステム)	事前学習	事前にシステム理論、エコロジカル理論について調べておくこと。教科書 pp. 160～163 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第23回	「総合的かつ包括的な相談援助を支える理論」③ (ストレングス・パースペクティブ、マルチシステム)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 163～167 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第24回	「相談援助にかかる専門職の概念と範囲」① (相談援助専門職の概念)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp. 170～177 を読んでくること。
		事後学習	ソーシャルワークになぜ専門性が必要なのかをノートにまとめる。
第25回	「相談援助にかかる専門職の概念と範囲」② (相談援助専門職の範囲、諸外国の動向)	事前学習	自分の興味があるソーシャルワークの専門職について調べておくこと。教科書 pp. 178～188 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。

第26回	「総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能」① (予防機能 事例検討 地域包括支援センターにおける実践)	事前学習	孤独死とは何かについて調べておくこと。教科書 pp. 190～200 を読んでくること。
		事後学習	提供された事例におけるソーシャルワーク実践のポイントをノートにまとめる。
第27回	「総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能」② (新しいニーズへの対応 事例検討 独立型社会福祉士の実践、スクールソーシャルワーカーによる総合支援)	事前学習	最近の新しいソーシャルワークの事例について新聞記事等の資料を探しもってくること。教科書 pp. 201～221 を読んでくること。
		事後学習	提供された事例におけるソーシャルワーク実践のポイントをノートにまとめる。
第28回	「総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能」③ (権利擁護機能 事例検討 知的障害者施設における権利擁護の実践)	事前学習	知的障害者の権利侵害に関する事例の資料を探しもってくること。教科書 pp. 222～231 を読んでくること。
		事後学習	提供された事例におけるソーシャルワーク実践のポイントをノートにまとめる。
第29回	「総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能」④ (社会資源開発機能 事例検討 社会福祉協議会による社会資源開発)	事前学習	市町村社会福祉協議会の機能と業務について調べておくこと。教科書 pp. 232～237 を読んでくること。
		事後学習	提供された事例におけるソーシャルワーク実践のポイントをノートにまとめる。
第30回	まとめ (これまでの講義内容のまとめを行う)	事前学習	これまで行われた確認テストのファイルをもってくること。
		事後学習	これまで行われた確認テストと教科書を通じて理解が不十分な部分についてチェックしノートにまとめること。
期末試験			